

第27回 ドイツ連邦コンクール
”わが村は未来を”の金賞受賞村

2023年度

27. Bundeswettbewerb
“Unser Dorf hat Zukunft”



金賞受賞：フレイダー村の収穫祭

ドイツ連邦食料・農業省

目 次

はじめに	ドイツ連邦食料・農業大臣 オズデミール	1
1	ブランデンブルグ州 フレーダー村	2
2	ニーダーザクセン州 キリヒボイツエン村	5
3	ノルトライン＝ヴェストファーレン州 マールベック村	7
4	ヘッセン州 メンスフェルデン村	10
5	ザールラント州 プリース メンゲン ボルヒエン村	13
6	バイエルン州 マインハイム村	15
7	バイエルン州 フーグルフイニング村	18



2024年4月
青森中央学院大学
地域マネジメント研究所
中川一徹



連邦食料・農業省オズデミール大臣



はじめに

オズデミール大臣は、第 27 回ドイツ連邦コンクール「わがむらは未来を」の受賞を決定した。このことについて大臣は述べた：

” スポーツ連盟か青少年センターかに拘わらず、教会の教区かまたは環境保護プロジェクトかに拘わらず、日々共同での大きなあるいは小さな決定に遭遇している。また、村の住民は自らの故郷のために参画し、そしてそこで団結を創り出し、共同の生活とともに人口変動による変化に対応している。”

共同の準備は、住民の様々な生活スタイルを越えて、むら社会を強化している。我々の国民経済の骨格を形成する農村地域において、重要な価値創造もまた生じている。農村地域には、中規模農業経営が全体の半分以上存在している。そして都市で暮らす何百万人の人々の故郷でもある。実践的な問題解決と賢明なる考え方をもって、むらの人々が共同体のために意欲を注いでいる。自らの故郷の未来に向けて生活し、愛着をもちそこに生きる価値を持ち続けている。

これはむらの中心地で活気ある店が、そして若者や高齢者が社会的、文化的な活動をもって提供してくれる。また、経済的なイニシアチブやソフトツーリズム（旅先での影響を少なくし、自然を体験する）が、持続可能性のチャンスを視野に入れている。同時にむらにおける生活の質的向上をも促進する。我々連邦政府は農村地域の将来性のために、住民の優れた社会参画を支援したい。

私はこの大きな感動を、第 27 回コンクールに参加された約 1100 のむらに対して捧げたい。連邦レベルで受賞された 22 のむらに、心からの祝意を申し上げたい。



連邦コンクール審査団



連邦コンクール入賞者表彰式

2024年1月 緑の週間 ベルリン

「わがむらは未来を」金賞を受賞したむらの紹介

1 ブランデンブルグ州 フレーダー村

ポツダム ミッテルマルク郡

住民数： 370人（2022年）

0~17歳 58人 18~65歳 230人

65歳以上 82人

村の形態：アンガードルフ：

村の中央にある草地エリアの周りに、家屋や農場が計画的に配置されている。

特徴：岩で建てられた教会

パイロット：集約的プロジェクト

この村の初めての文書記録：1313年

アクセス：バート ベルツェグ 郡の主要な町まで8 km

州 都：ポツダムまで55 km 近くの駅：6 km www.fredersdorf-pm.de



村のかぼちゃ祭

遊び・楽しみ・スポーツそして並はずれた結婚式

皆が一緒に行動するとき、わくわくするようなむらの生活がここで立証されている。フレーダー村の生活は、相互協力と連帯感によって特徴づけられている。1年の一家のクライマックスは、収穫感謝祭と秋祭りである。トンボク（富くじの一種）、ケーキビュツフェ（立食）またはお祝いの神聖なサービス（お祝いの礼拝）、全てが成功裡にむら共同体の生活体験に貢献している。

さらに伝統的な農民結婚式も感嘆されている。40人のむら人の役者が、家族が提供したオリジナルな衣装を身にまとっている。

夏にはむらの屋外プールが、多くの人々の出会いの場になっている。近くにはバレーボールコートと、多世代の遊び場が設置されている。むら人たちは共同で計画し、活動しそして学ぶ。祭は賑わいフレイダー村は退屈させない。

自然保護と農業との調和

この村は多くのむら人の参加でもって、気候保護のために努力をしている。2018 年以來、地域の並木通りに沿って特徴的な果樹が育っている。これは地域の風景をより美しくするだけでなく、種の多様性を向上させている。この村は期待される果樹の収穫で、経済的にも収益を得ている。田園的なハイフレミング自然公園は、今あるベルツインガー景観牧草地の自然保護上重要になっている。この村には、グレートバスタード（体重最大 16kg で世界で最も重い飛行鳥でノガンの一種）の最後の群れが棲息している。これは特別に珍しい鳥である。このため、私有林所有者はマツ単一構造の森を、オーク（ナラ科）やノルウエーカエデ、レッドオークでもって、気候に強い混交林に転換している。

歴史的な建造物を整備

この村における歴史的な建造物は、生きている今と伝統を重んじる意識を結びつけている。岩で建造された立派な教会は、村の中心地にある。教会建設協会は牧師館の再建を支援している。多様なイベントと行動でもって、福音主義の教区が、むら人の団結に貢献し、ウクライナの 2 家族を迎え入れている。この村の小川に設置されている水車小屋（ペンション）は、観光客を癒している。新しい居住団地の特徴ある「四面の中庭」は、中庭の周りに 4 つの建物が、庭を取り囲むように配置されている。これは中世以來、この地方の伝統的な建築様式である。屋根には太陽熱エネルギーと太陽光発電システムで、持続可能な暖房と電気を生産している。

ビーバーハイキング道を辿って

訪問者がこの村を良く知るためには、牧草地の景観の中を歩いて小川に沿ったハイキングコースを歩き、村に帰ってくるのが最適である。ずっと以前に再び整備された小川に沿って、ビーバーハイキング道と名づけられた道の案内板が、訪問者に情報を提供している。2014 年にむら共同体の共同事業として、この道をハイキング用に整備した。ハイキング道の途中にある川には、ビーバーが棲息しており、運が良ければビーバーに会うことができる。

村の発展を促進するために、住民の継続（生涯）教育を実施している。住民は定期的にプロジェクトのイベントを訪れている。ベルリンで毎年開かれている「緑の週間」と国内園芸ショーに行くか、またはお客の受入れを行っている。また、スペインへの住民派遣は刺激をもたらす。この交流のお蔭でこの村の将来もまた、国際的な視点で考えることができている。



岩で建てられた歴史的な教会



絶滅の危機に瀕しているグレートバスタード（ノガンの一種）



貴重な鳥を保護・監視する住民



特徴ある「四面家屋」



ビーバーハイキング道を歩く訪問客



村民の出会いの場ー屋外プール



プールでアクアフィットネスコース

2 ニーダーザクセン州 キリヒボイツェン村

ハイデ郡

住民数：608 人（2022 年）

0～17 歳 106 人 18～65 歳 365 人

65 歳以上 137 人

村の形態：ハウフェン村型一民家が不規則に集まり（塊状）形成された集落。自然発生的な集落が多い。



むらの未来をつくるための協働組合の設立総会

特 徴：ドイツ風の旅館（ガストハウス）が営業している。

1 階が居酒屋 2 階が宿泊室

プロジェクト：キリヒボイツェン インフラ構造(有限会社)

この村の最初の文書記録：1203 年

アクセス：バートファリングポストル（郡役所所在地）17km

ブレーメン（近くの大都市）68km ヴァルスオーデン駅 10km

www.kirchboitzen.de

建物の手入れと保全 または賑やかなクラブライフ むらの発展を自らの手に
停滞はこの村にとって外来語である。我々が動きたいときは、我々自身がまず動くをモットーに、住民として配慮している。そしてその動きを継続すること。この村の有限会社「キルヒボイツェン—インフラ協働組合」の設立でもって、2019 年から「むらコミュニティ」奨励のために、この公共機関的なそして法的な枠において、この参画が実施された。これでもってむら共同体が地域の発展を、財政的に支援している。最近の事例は、地元で経営するインフラ施設への効果は、農業医療サービスの提供である。これはこの村における医療上の基礎的な提供を保証し、そして若い人たちへの教育の場を提供する。

伝統的なオクトーバーフェスト(10月祭)

沢山動く人は、祭のためのスターターである。その年の祭のクライマックスは、10 月のボイツァー市場である。市場の開会はガストハウス前の伝統的な樽詰めビールの口明けでもって始まり、市場が開かれる。むらコミュニティは、多くの参加者と投資でもって盛り上がる。これへの積極的な参加は、農村医療実践と保持といった結果をもたらしている。村の人々は、スタンドまたは移動販売車から、美味しくそして栄養のある食事を楽しむ。夜には DJ 音楽を暖房の効いた祭のテントで聞き、そしてダンスを踊る。

音楽は連帯を強める

この村はリューネブルグからハイデの南西端にある現況から、高度の保養価値でもって際立っている。村外からくるお客のために、川のそばのキャンプ場、ガストハウスと休暇の家を配置し、多様な宿泊スタイルを提供している。

キリヒボイツェン村においては、静かにそしてリラックスできるようにしているものの、この地で全く静かなことが滅多にない。多くの音楽家、フルートサークル音楽集団、金管楽器女性合奏団または青少年・高齢者の合唱団がやってくる。歌いそして演奏することは、この村の世代間の連帯を強化している。

生き活きとしたアドベント カレンダー

(クリスマスまでのカウントダウンを楽しむカレンダー。12月に入ってから飾る。)

協会活動と並んで多くのイニシアチブも、むらにおける生活に関わっている。

この間に現地でプライベートに組織された「蚤の市」は、地域を越えて知られている。特別に設計されたブックハウス（本の交換箱）が、支援されている。

アドベント（キリスト降臨）において、住民が自らの地に招く。そこで共同で伝統的な音楽を演奏し、そして歴史も説明する。この村は年間を通じて共同でリラックスしている。



むらのシンボル・ミハエル教会
1203年の村の歴史文書に既に記載



むらの未来を担う子供達の10月ラン



青少年のキャンプ場を設置



古い農場でのオートキャンプ場



青少年合唱団



金管合奏団



ガストハウス前で樽詰めビールの
口開けで祭りがスタート



教会通りでのむらのお祭

3 ノルトラインーヴェストファーレン州 マールベック村

ボールケン郡

住民数：2482 人（2022 年） 0~17 歳 468 人 18~64 歳 1549 人
65 歳以上 465 人

村の形態：散在集落 個々の農場で構成される非閉鎖型の集落

特 徴：マールベック郷土館

この村の最初の文書記録：9 世紀

アクセス：

ボールケン郡（郡役所所在地）7km

レックリングハウゼン（郡の首府）39km

最寄り駅 マールベッカーハイデン駅

www.marbeck.info



むら人の出会いの場・郷土館前で
ダンスに興ずる若者たち

マーベック村の家々は村内に散在している。それにも拘わらず、住民は世代を越えてまとまっている。慣習を引継ぎ発展させ、そして再生可能エネルギーを活用している。マーベック郷土館を訪問する際に、花で飾られた木製ワゴン、小さなテーブルと手入れされた生垣が、すぐに目に入ってくる。この建物の中には、古い園芸一畑作用具、西部ミュンスターランドのむら人の歴史的な農民生活が伝承されている。この郷土館は1999年に最初のお客に扉を開けた。

マーベック村は多くのむら人の自発的な取組みによって、僅か2年間でオーク材で枠組みされた納屋が建設された。この郷土館の訪問者は、農業上の歴史の展示を見るだけでなく、夏にはコーヒーとお菓子を味わうことができる。

これに加えて紡績グループにも会うことができる。ここでは靴下、手袋、ベストそして帽子も買うことができる。

持続可能なエネルギーの生産・供給

マーベック村は将来有機農業への挑戦も、重要な課題に設定している。さらにはこの地域のエネルギー自給のために、各世帯と企業の太陽光発電、ソーラーシステムでもって、村の全体的消費よりも多い電気を生産している。村の企業は各家の設備とりつけを支援している。この間に自動車と電動自転車の充電ステーションは、当然のごとくこの村の風景になっている。また、バイオ発電所と風力タービンでも電気を生産している。雨が降って太陽光発電の利用が出来ない周辺町村の学校や病院には、この電気を供給しエネルギーの安定的な利用にも寄与している。

散在型集落にも拘わらず常に集中を

マーベック村は他にあるようなむらの歴史的な中心地がない。散在している集落は、25 km²の面積に広がっている。しかし、2 500人の住民はクラブを中心とした生き生きとした生活、沢山のイベントを様々な地域で実施している。射撃大会でのバードポール（訳注・射撃用に上部に木製の鳥を取り付けた高い柱）、メイポール（5月祭）、スポーツ広場の設置など。地域の中心点はいつもの人々が出会い、共同で活動するところである。

幼いころから自然との接触

村全体で 27 戸の主業経営（訳注・専業と第 1 種兼業経営）と 11 戸の兼業経営、そして 250 人以上の従事者が、この村の農業に関わっている。これらの農業経営は村の経済的な支えだけでなく、村の持続可能な発展のための独自の構想でもって貢献している。つまり、農業経営は幼稚園と学校に出向いて自らの毎日の仕事を紹介し、そして自分の農場に子供たちを招いている。若い世代に早くから自然に接した生活をもたらし、地元での農業といった職業を教え、生徒たちは学んでいる。

さらに昆虫ホテル、郷土館沿いの野生のお花畑、雨水貯水槽近くでの子供の樹木通りは、それぞれこの村の散歩道になっている。むらの美しい自然的な配慮でもって、生きる価値を高めている。



むら人の活動拠点・郷土館



郷土館の喫茶室で新年会



郷土館広場でのイベント



郷土館・むらの生活史を展示



子供達の手作り・昆虫ホテル



芸術的な昆虫ホテル



風力発電施設の建設



村のサッカー場・マールベック村の女子FCが地区のトップを走る。

4 ヘッセン州 メンスフェルデン村

リンブルグーヴァイブルグ郡

住民数（2022年）1 289人 0~17歳 208人 18~65歳 780人
65歳以上 301人

村の形態：歴史的に最も古い集落形態

家屋を平に配置した集落。道路と小道をネットワーク化した不規則性が特徴。

特 徴：古い家々

プロジェクト：むら共同体の中心地の振興

この村の初めての文書記録：775年

アクセス：郡の主要な町リンブルグ駅まで

11km ヴィスバーデン 36km

リンデンホルツハウゼン駅 6km



むらの中心地でむら人の集い

www.huenfelden.de

素晴らしい景色と良好な交通アクセスをもったメンスフェルデンは、人々の生きる価値を創り出している。数十年の長きにわたった分裂の重要な体験は、むら共同体に大きな傷を残していた。そのため、今日なおのこと緊密な関係づくりが重要である。メンスフェルデン村は、ラインラントプファルツ州の境界で、多くのスポーツ的、文化的な提供によって特徴づけられる。「将来に向けて共同で」を、村のモットーにしている。しかし、それだけではいつまでも生きていけない。メンスフェルデンの体操スポーツ協会が、1967年に大規模で機能的なホールを建設した。協会の全てのメンバーが無償でこの建設作業に取り組んだ。そして完成したのが、エーリッヒヴァレスケホール（体育館）であった。

このホールの建設を契機に、50年間続いた村の分裂は修復された。そして古い学校、古い役場、TVーヤーンホールそしてTUSーホールは、4つの協会の所在住所を捨て、統一された協会が再興された。ここでは体操、サッカー、射撃、女子サッカー、卓球の練習のためのスペースが確保されている。

若い家族にとって魅力的なむらづくり

この村は若い家族にとって、魅力的な居住地である。この中で18歳以下の割合が高くなっている。自然アカデミー協会、ハルベスター農場では、定期的に家族ピクニック、写真ワークショップが開催されている。カメラでもって植物相ー動物相の世界の素晴らしいモチーフが撮られている。近くのA3ー高速道路とICE（高速列車）リムブルグ駅は、ラインーメイン、ヴイスバーデン、ケルンの首都圏にスムーズに接続可能である。ホームオフィスでの仕事は、光ファイバー拡張のお蔭で、他の地域と同じく可能になっている。最も小規模なのは、このメンسفエルデンで立ち上げられている。

地元産の美味しいもの

レギオマート（地元産食料自動販売機）は村の中心地にあり、有機卵、ミートボール、ソーセージ並びにリンゴ・ナシジュース等を提供している。この自動販売機は、24時間年中無休で販売している。支払い方法は、現金からカード、携帯電話で可能である。地域で栽培されている美味しい産物は、ハーベスター農場でも提供している。実用的なセルフサービス構想でもって、有機農場直売店は365日間開店している。

パノラマビューのレクリエーションエリア

この村の北方地域には、標高314mの”メンسفエルダー山”が座っている。そこからリムブルグ盆地とランタール徒歩道は、1998年以来自然保護地域として認定された。山の上には村所有の天燃芝のスポーツ施設がある。多くの人々がここで自由に参加したとき、その場を保護する活動を定期的に行っている。

ボランティア活動に関心のあるグループが、定期的にごみ収集を行い、そして「イモリ」と「カナヘビ」生息のために、ケルン（石の山）を築いている。

また、植物相ー動物相の情報看板を設置している。地元の人々の参加でもって、創造的につくられた美しい景観が、村の中に溶け込んでいる。



美しい自然に囲まれたメンスフェルデン村



古い税関事務所で結婚式を
挙げる村のカップル



長年分裂していたスポーツ団体がまとまって
建設した村の体育館



村の体育館で体操のトレーニング



子供たちがテコンドーの練習



村の体操大会で表彰される子供達



村のスポーツ施設で高齢者のバレー大会



地元産食料の自動販売

5 ザールラント州 プリース メンゲンーボルヒエン村

ザールプファルツ郡

住民数：1816人（2022年） 0~17歳 327人

18~65歳 1092人 65歳以上 397人

村の形態：涯村（道の両側または片側に人家が
帯状に発達した村）

特 徴：ドイツとフランスを結ぶ国際理解の橋

パイロットプロジェクト：隣国フランスとの

緊密な関係構築



ドイツ・フランスを結ぶ
フレンドシップ橋

この村の初めての文書記録：1180年

（橋の中央に両国の国旗）

アクセス：ホクブルグ（郡役所所在地）30 km ザールブリュッケン 18 km

ハンヴァイラーバート リルチンゲン駅 8 km

www.bliesmengen-bolchen.de

ブリースメンゲンーボルヒエンには、ドイツーフランスの友好関係が築かれている。さらにザールラント州にあるこの村は、演劇に関心のある多くの人々を惹きつけている。また、村の人々は動物と植物の多様性を育てている。国際理解、良好な隣人関係そして互いの支援意志のこの3つは、既にずっと以前からこの村を特徴づけている。1990年以來、ブリエス川にかかる橋が、フランスの隣国地ブリース・シュヴァイエエンと結びつけている。ドイツーフランスの友好関係は、住民のクラブまたは合同の祭など、至るところではっきりしている。

アプリと太陽光発電のお蔭で未来を

この村はあらゆる年齢グループのためのインテリジェントテクノロジーでもって、デジタル コミュニケーションの可能性を活用している。また、この村は独自のアプリで村内の最新ニュースを人々に伝え、時期ごとのイベントカレンダーを提供している。注目に値することは、むらの共同体の中に良く組み込まれている、強固な企業環境である。エネルギー転換に向けた挑戦のために、この村は好位置にある。むら人は太陽光発電について、自分の住居や畜舎の屋根が、発電に適しているかどうか、中立的なそして独立した情報を引き出すことができる。

自然舞台でお客を和ませる

1932年に建設された野外劇場は、地域の境を越えて有名になっている。6月から8月のトップシーズンには、子供達と高齢者のための幾つかの戯曲が上演されている。戯曲は1シーズン当たり、約20,000人のお客を呼び込んでいる。

この村は既に幅広く多くの支援一寄付行為を、成功裡に実施している。
例えば、アール渓谷における水害のために、そしてウクライナからの難民の日常生活を、スポンサーシップモデル（企業が文化、スポーツを金銭的に援助する）で支援している。また、ドイツ政府や州当局への対応も行っている。

チャンスとしての生物多様性

この村の周辺に散在果樹（牧草地内に果樹を栽培）とカエデの並木道が広がっている。住民達は、牧草地の休日イベントに多く参加している。例えば、牧草の遅い収穫時期は、地域の昆虫の多様性保持に貢献している。この村の住民は、特に地域の生物多様性を保持するために、生物圏保護区・ブリーズガウ（フランス国境ザールラントにある地域）に対して、強い愛着心を抱いている。このため、現地でのビオトープマッピング（統一したガイドラインに沿って、野外地の動物一植物相を記載）を作成している。このマッピングは、野外地における動物一植物の貴重な現況をカバーしている。

村の中では非常に多くの改修済みの古い家屋が、存在している。これは開発計画並びに事前に準備されたむらづくり調査でもって、詳細な村内土地利用計画の成果である。観光案内用の電話ボックスの転用は、この村における地域振興の直感的なひらめきと創造性を証明している。



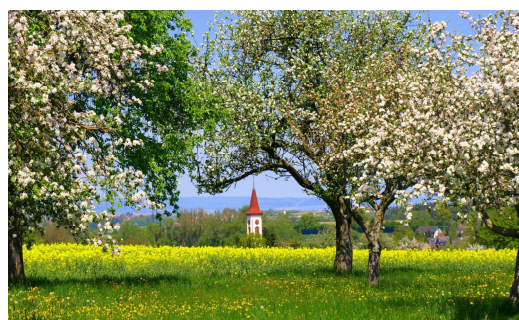
隣国・フランスの村との友好祭記念碑



自然を舞台としたむらの野外劇場
年間2万人がやってくる。



ウクライナ難民の受入れ一生活の支援



牧草地にリンゴ樹を栽培（散在果樹）



散在果樹に棲息するフクロウ

草地に生えるラン

オープンガーデンービオトープ



むらの歴史協会が設立される。

ローマ時代を再現

むらの昔の生活を展示



古い建物を修復してむらの博物館に



気候保護と持続可能なエネルギーで未来をつくる。

6 バイエルン州 マインハイム村

ヴァイセンベルグ グンシエルハウゼン郡

住民数：576 人（2022 年） 0~17 歳 97 人

18~65 歳 374 人 65 歳以上 105 人

村の形態：村の中央の草地の周りに家や農場が配置されている。

特 徴：多彩な釉薬を使用した屋根瓦の福音派のルター教会

プロジェクト：ローカル暖房ネットワークの建設

この村の初めての文書記録：1154 年



むらのシンボルの教会

アクセス：バイエルンのヴァイセンブルグ（郡役所所在地）15 km

インゴルシュタット：64 km トロイヒトリンゲン：12

有名な教会と地域の革新的なエネルギー供給は、このフランケン地方のアルトミュラーの遥か彼方まで輝かさせている。マンハイムは先駆けている。アルミュタール地方におけるこの村は、経営的な活動力と展望でもって、長期間のエネルギー転換に関する成果多い仕事をしている。既に 2013 年に市街地への地域暖房供給のテーマに取り組んでいる。この村の現地では、光ファイバーネットもまた、半分以上を自らの手で殆どの家庭に高速インターネットを提供している。また、村では高品質で量的にも恵まれた湧き水でもって、独自の水を供給をするなど、生活に関わる基本的なサービスを実現させている。

多彩なそして特徴のあるシンボルー教会

マンハイムの教会もまた印象深い。これは釉薬を用いた彩りのある 51m の高さをもった塔が、村のはずれから遠望することができる。この福音派教会の庭園は、休憩のために人々を招いてくれる。庭園の散歩道は数年前から村共同体の活動でもって、新たに整備・舗装され、マンハイムの人々に利用されている。教会の聖歌隊と参加者の多いミサは、地域的にだけでなく社会的、文化的にも村に定着している。

多くのスタイルをもった慣習の保持

急勾配の屋根、ルーフ出窓と棚。これはマンハイムにおける多く建物にみられる。教会の向かいにあるガストハウス（ドイツの農村地域に多くある居酒屋兼宿屋）は、古典的なフランケン建築様式を保持し、これの保全のために 2011 年に州から「模範的な記念碑保存賞」を受けている。田舎の肉屋の建物、エンケルバルト家の屋敷並びに中世後期の農場もまた、伝統的な建築様式を復活・維持している。村はさらに多くの祭でもって伝統を守っている。クライマックスは、8 月の第 1 土曜日のシュトッペル祭（収穫祭）である。この祭りには各地から 5 000 人の来訪者がやってくる。そしてビール、スペシャルバーベキューと音楽でもって穀物の収穫を祝う。

池と草地との間の出会いー集合の中心地

特に夏には、老いも若きも全世代の集合の場が古い池である。そこからほんの数メートルで散在果樹草地に至る。この草地は園芸一郷土史協会が、後継者グループ「ハタネズミ」の応援のもとに、2016 年に造成した。

この中の遊歩道には、小川に沿った8つのかつての水車小屋に関する情報を、
掲示している。この水車小屋はこの地域の歴史を刻印している。観光について
もマンハイムは、革新的な精神と社会的な行動を示している。ペンション「バ
ーバラ（ギリシャ神話に由来する女性の名前）」は、バリアフリーの室内整備
でもって、障害をもった人を特別に対象としている。ドイツ中からの旅行グル
ープは、ここで好んで休暇を過ごしている。



マンハイムの象徴・聖ウンバルト協会
中世13~14世紀建立された福音ルター派教会



教会の聖歌隊・社会的、文化的にも
むらに定着している。



むらの郊外には草地と散歩道が続く。



川沿いには8つの水車小屋



むらの収穫祭はその年一番最初に小麦を
収穫した畑が会場となる。



麦畑に設置した巨大なテントで乾杯



収穫祭にはむらの狩猟協会員も参加



マインハイムの近郊に太陽光発電施設を建築中

7 バイエルン州 フーグルフィング村

ヴァイルハイムーショウンガウ郡

住民数：2902 人（2022 年） 0~17 歳 582 人

18~65 歳 1761 人 65 歳以上 559 人

村の形態：街路集落（ストレート ビレッジ）

特 徴：フンガーバッハ川

灯台プロジェクト：苔の道に沿った冒険の
遊び場造成



子供達の意見で木製の
ジャングルジムを設置

この村の初めての文書記録：1030 年

アクセス：オーバーバイエルンのヴァイルハイム（郡役所所在地）10 km
ミュンヘン 71 km

駅に沿った湿原の中に遊び場がある。フーグル フィング村における住民参加は、多くの場所でみられる。様々な成果では、例えば住民参画の成功である。フーグル フィング駅は地域鉄道の役割だけでなく、同時にこの場所はショールーム、カフェそしてコワーキングのスペースでもある。前アルプスの丘陵地帯に位置している美しいプファルツ ヴィンケル地域（バイエルン州南部の地域）のこの村は、駅の現地を入手した後に魅力的な多くの歩みを進めてきている。

住民は好んでこの動きを拡大してきている。計画段階でワークショップを始めるために、住民は自らの考えと望みを計画の中に、組み込んできている。

今日自ら実施してきたカフェ「ハイ、車掌」で、お菓子やスープを味わっている。2 階の事務室では、多くの自営業者が参加している。駅の物置と信号小屋には、この村の美術—文化展示協会が、定期的に展示を募っている。

ボランティアで景観保全を

この村のグラスライテナー湿地景観は、多くの多様性を保持している。種の豊かな湿地―草地複合地域は、なお農業上の栽培と荒野の結びつきから成り立っている。そこには多くのラン（蘭）と並んで、珍しくそして保護対象でもある動物、毒をもったクサリヘビ（ユーラシア大陸に分布）も棲息している。湿地景観の保護と保持のために、多くのボランティアが住民を支援している。

その際、特に敏感な湿地の草刈りは、地域の農家によって機械でもって慎重に行われる。これは生態系上貴重なビオトープを保護するだけでなく、むらの住民の社会的団結も強化する。地域を流れるクンガウ川は、様々な動物の棲息空間だけでなく、住民のためのレクリエーションの川でもある。

全世代のための魅力

この村の企画は若い人々のために、この地での魅力を創り出す上で、大きな貢献を果たしている。村にあるフーグルフィング小学校後期の生徒たちを対象に、地域の自然と触れ合う「実践のクラス」を開設している。また、この村において高齢者もまた良くまとまっている。この地域の隣人扶助協会が月に1回、村の共同ハウスで「近所の人支援カフェ・バンガー溪谷」を開設している。

これは特に1人で生活している人とここで接点を見い出し、相互に交流し、日常の問題について支援するためである。その際、村は隣のエグルフィング、オーバーハウゼンと提携している。

共同の力で子供の遊び場を

むら住民の特別な共同作業は、湿原の道沿いに「冒険の遊び場」設置である。

子供と青少年が自分たちの遊び場について、どのような遊具を取り入れるか、予め自分達の意見を提案している。例えば、木材柱でもって作ったジャングルジムの要望を出し、遊び場全体の絵を描くなどの貢献をしている。また大人たちは遊具の設置や遊び場全体のイメージなど、構造デザイナーソフトウェアを用いて支援している。



フーグル フィング村の象徴・聖ヨハン教会



村の駅と美術・文化展示協会の屋外展示



駅2階にあるコワーキングスペース



駅の2階には「喫茶車掌」



近所の一人暮らしを支援するカフェ（月1回）



子供の遊び場づくりをするボランティア



冒険の遊び場



村の近くの湿原にランが咲く



湿原に棲息する絶滅危惧種クサリヘビ



フーグルフィング村の南方にはアルゴイアルペンが聳える。その裏側がオーストリアのチロルアルプス。

むらづくりコンクール 連邦表彰式



審査員団の現地調査



華やかな表彰式の会場



連邦食料・農業大臣オズデミールが
表彰状の授与



表彰された各村の代表者



表彰される村の晴れやかな入場



村の代表者をベルリン・ベルビュー
宮殿に招きヴァルター大統領の祝辞



受賞を喜ぶむらの人々



若者たちがむら祭りを



子供達は我々の未来

発行者：

ドイツ連邦食料・農業省（BMEL）

地域一村発展 812 課 農村発展・地域整備連邦プログラム

ヴァイルヘルム通り 54

0 0 1 1 7 ベルリン 812@bmel.de

2023 年 11 月 現在

本文作成：

新コミュニケーション エージェント AG（株式会社）

連邦食料・農業省（BMEL）

連邦農業・食料局（BLE）

農業・食料連邦局 農村発展専門知識センター（KOmLE）

印刷：パダーボルン市 ボナムフェーレ（私達の本）有限会社

このパンフレットの注文情報：

あなたはこれとさらなるパンフレットを、以下の方法でもって無料で入手することができます。

www.bmel.de/publilationen

publikationen@bundesregierung.de

TEL:+49 (0) 30 18272 2721 FAX:+49 (0) 30 1810 272 2721

文 書：

連邦政府広報発送係

私書箱 48 10 09 ロストック

手話電話による注文：

gebaerdentelefon@sip.bundesregierung.de



手話電話

注 意：

この出版物は、連邦食料・農業省から無料で提供されています。

これを販売することはできません。

また、これを政治的な党ないしグループの選挙広告の分野において、使用することはできません。

